



山田会計事務所だより

〒 454 - 0983

名古屋市中川区東春田 3 丁目 1 2 0 - 1

令和 4 年 1 2 月号 (第335号)

山田達也税理士事務所

0 5 2 - 3 0 2 - 4 0 1 7

http://www.yamadakaikei21.com

Google

山田会計 中川区

検索

前略 いつもお世話になっております、今月号の事務所だよりをお届けしますので、ご査収下さいますようお願い申し上げます。

## 円安と株価について

2022年になってから円安が続いています。

輸出企業にとっては、以前より相手国が安いと判断し輸出がしやすいです。反対に輸入品の価格は上がる一方で、一般消費者は、為替による悪いインフレで輸入品が高くなっても収入は変わらず、お金が不足するか(?)輸入品を買う量が減ります。政府・日本銀行が10月22日に実施した円買い・ドル売りの為替介入額が1回の円買いとしては過去最大となる5兆5000億円規模と

言われています。政府・日銀が9月22日に実施した円買い為替介入(2兆8382億円分)を上回る規模です。

正式な規模は、財務省が月末、1か月分の為替介入の実施実績として、公表されます。

ただ為替介入しても円高になるのは一瞬で、数日で元通りの円安になっています。介入よりも見えざる手によって為替も

動いているのでしょうか。

### 1.今年になってからの対米ドル円の推移



### 2.今年になってからの米ドル建て日経平均株価の推移



日経平均株価はこの半年ほとんど変わっていません。しかしドル建ての日経平均は15%以上も下落しています。急激な円安になった為にドル建ての日経平均株価(海外、ドルを使う国から見た日本)は割安になっています。政府日銀が円安を回避するため、介入ではなく諸外国のように金利を上げれば円高になって行くでしょう。金利が上がれば企業も多額の国債を発行している国も資金繰りが悪くなります。さらに日本株が諸外国から見ると割高になり、株価が下落して年金等の機関投資家、国の所有している日本株も下落してしまいます。政府、日銀の舵取りも非常に難しい状況になっています。